２０２１年１１月１６日（火）

老球の細道６４０号

女子スポーツのプロ化

会津バスケットボール協会　室　井　冨　仁

女子サッカーがプロ化して「WE リーグ」（Women Empowerment　League）として発足した。９月にリーグ戦が開幕し順調に試合が開催されているようである。

WE リーグは今まであったアマチュアの「なでしこリーグ」９チームとＪリーグの大宮と広島の女子クラブチーム２チームが加わり計１１クラブチームが参加し、「ホーム・アンド・アウエイ方式」総当たりリーグ戦で行われる。優勝賞金は２千万円だという。ちなみに、わがバスケットボールの B1 リーグは５千万円、Ｂ２は１千万円である。

ここに来て女子プロサッカーリーグが設立された理由は、世の中がジェンダーフリーの今、同じサッカーをやっているのに女子にはプロリーグがないというのもおかしなことであるから世の中の流れには逆らえなかったのかもしれない。高校野球でも女子が甲子園球場で高校女子日本選手権大会を行うようになった。

もちろん世の中の流れだけではなく深刻な理由もあった。日本女子代表の低迷である。２０１１年Ｗ杯で金メダルに輝いたのは束の間、２０１９年Ｗ杯では１６強まで落ち、今夏の東京五輪においては期待されたが８位に終わってしまった。監督が福島県成蹊高校出身の高倉さんだったので手腕に期待していたのだが、バレーボールの中田久美同様女子指導者として金字塔を上げることはできなかった。

なぜこれほど急激に低迷してしまったのか。日本女子が弱くなっているのではなく欧米などの他の強豪国が強くなっているという。それらの国がプロ化に舵を切り、本格的に強化に乗り出している。日本女子がワールドカップ金メダルで安穏としている最中、欧米の強豪国はプロ化して男子と同じように激しい競争の世界に突入していたのである。

このような流れに遅れてはと危機感を感じて、日本サッカー協会は WE リーグの発足を決断した。この新リーグは強化のみならず女性活躍社会の視点がところどころに組み入れられている。さすがに日本スポーツトレンドの最先端を走るサッカー界である。

WE リーグを「女性が活躍する社会」をリードする場にするという目標も設定している。運営法人の役員５０％以上を女性にすることや、女子プロサッカー選手という職業を確立し、少女達の夢の受け皿を作り、雇用や生き方の選択肢を増やすことがあげられている。まだスタートしたばかりだが、円滑な運営をするためにも安定した入場者数と放映権収入が今後の課題となるようである。

一方、東京五輪で史上初の銀メダルを獲得した我らが日本女子バスケットボール。女子サッカー低迷の歴史を他山の石としなければならないだろう。TV のお笑い番組に駆り出されて知名度を上げることも大切であるが、次なる道を模索しないと女子サッカーの二の舞にならないだろうか。女子バスケットボールの「W リーグ」は相変わらずアマチュアのままであるが、それでいいのだろうか。満足の先に没落があることは歴史が示している。